

学ぶよろこびを味わえる英語学習

～自己表現活動の実践～

中 釜 智 子

I はじめに

「わたしの大切な人」。これは、現在3年生の生徒が入学したときに、自己表現の課題として、自己紹介の次に表現するようにと、取り組ませたもののタイトルである。英語の教科書の初めの部分には、ほとんどの場合、*This is* ～. がでてくる。これを「これは(こちらは)～です。」という意味だと教え、*This is Ken./This is Mary./This is* ～とPattern Practiceをさせておしまい、とするのはたやすい。なにより時間がかからない。しかし、そのなかでは生徒は学ぶよろこびなど感じられないのではないだろうか。わたし自身の経験を振り返ってみても、英語の学習で一番楽しかったのは自分の身近なこと、自分の思っていることを英語で言ったり書いたりすることであった。簡単なことでいい、いやむしろ簡単なことだからこそ、*This is Mary.* ではなく“*This is* わたしの大切な人。”と言わせることに価値があると思った。わたしの大切な人は誰だろう、英語で紹介するにはどう言おうか(ああこの表現はこういうときに使うのか)、と考え友達に自分の大切な人を英語で*This is* ～. と紹介することのなかには*This is Mary.* では味わえないよろこびがあると思う。

「わたしの大切な人」の生徒作品は力作ぞろいであった。写真や似顔絵、ごく簡単な英語の紹介文、日本語による添え書き。これらを各教室に展示しておいたところ、それを見た先生から「あなたらしいこだわりだね。」と言われたことがある。確かに私は英語で自己表現をすることにこだわってきたように思う。自己表現こそが生徒の意欲を引き出し、また生きた言語としての英語の力を伸ばす有効な手段だと思うからである。

II 研究のねらい

現在担当している3年生は、1年生の時から指導してきた生徒達である。彼らの入学してから今までの自己表現活動をまとめ、考察することによって、どのような指導の工夫をすれば、生徒が学ぶよろこびを味わいながら英語を学習できるかということについて考えてみたいと思う。

III 研究の基盤

1. 自己表現の意義

わたし自身が中学生だったときに英語学習の中で自己表現活動が最も好きであったことは前述のとおりである。他の学習者はどうであろうか。例えばTursi (1970:58,cf. 三浦(編)(1983))は次のように言っている。

我々外国語の教師が銘記しておかなければならないことは、生徒が外国語で表現したいと望んでいるのは“魂”——自分自身であるということである。

自分の表現したいことを英語で書いたり話したりできたときの満足感や成成感は大い。Tursi (1970:40,cf. 三浦(編)(1983))は次のようにも言っている。

学習意欲を維持するために重要なのは、言語自体の練習ではなく、何か他の目的を持った言語使用がうまくいった経験を与えてやることである。そうすれば、学習者はコースの終わりに、実際の言語使用ができるかどうかという疑いを持つこともなく、成成感を得ることができる。

国際化時代のなか、学習指導要領の外国語の目標に「外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態

度を育てる」ことが新たに加わったことからわかるように、現在コミュニケーション能力の育成の重要性が叫ばれている。コミュニケーションを図るにはまずコミュニケーションしようとする内容がなくてはならない。この内容には当然自己表現が重要なものとして含まれよう。他からの借り物ではない自分自身の考えや知識、情報を相手に伝えることができる力を育てることはコミュニケーション能力の育成の観点からも重要である。

また、英語を生きた言語としてとらえさせるためにも自己表現は効果的である。大浦（監）（1982:3）は次のように述べている。

（自己表現は）言葉の世界を自分自身のものとしてとらえなおすことにほかならない。この場合、言語形式は自己の生活現実とかかわって意味内容としっかり結びつき、実感をもってとらえられている。もし言語の形式をなんとか習慣的におぼえさせることだけをねらって、ただ機械的・反射的に単語をつぎつぎと代入させ、たとえば野球のグローブを持ってもないのに女の子がThis is my glove.と言うようなことになれば、形式と内容が分離して、子どもたちはとんでもない絵そらごととして言語をとらえてしまうだろう。（中略）（英語入門期に）英語を自分の生活現実と結びついた実質のあるものとして実感するか、生活とはかわりのない単なる記号の体系として理解するか、その違いによって生じる差は大きい。

このように学習意欲の面からも、コミュニケーション能力の育成の面からも、学習効果の面からも、自己表現の意義は大きいと言える。

2. 自己表現の定義

自己表現とは何だろうか。大浦（監）（1982:3-4）は次のように定義している。

自己表現は「自己の真実を表現する」ことだと述べたが、その本質は世界に対する自己の認識を問わずに表現するところにある。したがって、自己の生活事実を表現することだけに限らないし、表現手段にしても、言語によるもののほか、絵や図、記号、動作、音楽、発声などで表現する場合があります、言語でも母国語と外国語、音声によるものと文字によるものが考えられる。

私もこの考え方に賛成である。本稿でとりあげた英語による自己表現の実践例の中には、英語を使って楽しめるものづくり、絵本作り、怪談づくり、日本の事物の紹介など、一見自分のことを言っているのではないように思われるものもある。しかし、例えば日本の事物紹介では、外国の人に対して紹介したい日本の事物を自分で選び（つまりここに日本の事物に対する自己の認識が現れてくる）、さらにその事物のどんなことを（ここでも同様のことが言える）、どんな英語で表現するかも自分で決定する。すなわち、直接自分のことを題材にとらなくても、外国の人は日本のどんなことに興味をもつだろうか、外国の人にぜひ知らせたい日本の事物は何だろうか、と考え、自分の考えを表現していることになるので、これも英語による自己表現ととらえた。

IV 実践と考察

以上、研究の基盤で述べた考え方によって実践を行ってきた。自己表現活動は、それぞれの学習段階に応じて継続して行うことが重要であると思う。そこで、現在の3年生を対象に、入学から今まで行ってきた自己表現活動について、音声面ではスピーチ活動、文字面では英作文を中心にして実践報告をし、考察を加えることにする。

1. 音声による自己表現の実践～スピーチ活動～

(1) スピーチ活動（第1、2学年時）

本校英語科では全学年を通じてスピーチ活動を行っている。本稿で実践を報告する生徒達も1年生の時からスピーチ活動に取り組んできた。この学年の第3学年4月までのスピーチ活動の手順は次のとおりであった。

- ・事前に当番の生徒はスピーチの原稿を教師に見せ、指導、援助を受ける。
- ・当日、当番の生徒は未習語をあらかじめ黒板に書いておき、スピーチをする前に発音と意味を説明する。
- ・授業の最初に当番の生徒がスピーチをする。

- ・スピーチの後、英語を使っての質疑応答の時間をとる。コメントはすべて生徒の挙手により、スピーチをした生徒がそのなかから指名する。
- ・生徒は各自の評価表に評価や質問、コメント等を記録する。(スピーチをした本人には渡さない。)

以上の活動を毎時間10～15分かけて行ってきた。このなかで重視してきたのは、

- ・本当に言いたいことを言うようにする。
- ・話す意欲を大切にす。生徒がまだ習っていないことを言おうとしたり、まだ十分習得できていないことを試みたりして犯す誤りは許容し、いちいち訂正したりしない。
- ・基本的、かつ重要な誤りをし、その場で修正が必要だと思われる場合は、正しい表現で繰り返し、問いかけたりして、生徒自身が「ああ、そういえばよかったのか。」と気付くようにしむける。(生徒が自分で気付き、誤りを納得できるようなもの以外は修正しない。)
- ・生徒同士のinteractionを大切にす、質疑応答の時間を設ける。

ということである。

上述のようにして2年間スピーチ活動をしてきたが、3年生になって毎時間の活動がスムーズにできるようになった反面、問題点や課題も見えてきた。そこで今年度はスピーチ活動の見直しを行うことにした。

(2) スピーチ活動の見直し(第3学年時)

① 教師の願い

スピーチ活動を見直すにあたり、教師の願いは以下の通りであった。

- ・もっと多くの生徒に発表してほしい。自主的な挙手による発表を原則としているので、発表する生徒は何回でも発表するが、その一方で全く発表をしない生徒もでてきた。
- ・クラス全体を巻き込んだ活動にしたい。スピーチをした生徒対コメントをした生徒の1対1の対話にとどまらず、クラス全体で話題を共有したい。
- ・コメントの内容をより豊かなものにしたい。例えば、「I like ~ , too」と言った場合、それだけで終わらず、その理由や詳しい内容を付け加えて言える生徒を育てたい。
- ・もっと新しく習得した言語材料を活用させたい。発表する生徒の中には、毎回ワンパターンのコメントしか言わず、それでよしとしている者も見られるが、そういう生徒にもより豊かな英語表現を目指させたい。
- ・評価表を改善したい。
- ・スピーチ活動にもっと主体的に積極的に取り組ませたい。教師が、できるかぎり表に出ず援助役に徹していることの意味を考えさせたい。

② 生徒の願いと課題意識

スピーチ活動の見直しは、ぜひとも生徒と共に話し合っ行っていかった。3年生ともなれば、自分の学習を反省し検討する力が身についているし、なにより、スピーチ活動を、与えられたものとしてではなく、自分たちで作上げるものだという意識でとらえさせたかったからである。そこでまず、スピーチ活動をよりよいものにするにはどうしたらいいと思うか、アンケートを行った。その結果をまとめてみると、意見の多い順に、次のようになった。

「スピーチ活動をより良いものにするには/スピーチ活動の問題点」

(3年生152名対象、1993.4.9～13実施、複数回答)

○コメントに関するもの(90名)

- ・コメントは2文以上言うようにしたらいい
- ・ごく一般的なコメントはやめて、今まで習った文をフルに使って言うようにしたらいい

- ・スピーチの内容がよく分からなくてコメントができない
- ・とっさにコメントの内容が思い浮かばない
- ・言いたいことはあってもどう言えばよいのかがとっさに思い浮かばない
- ・全体の場では言いにくい

○スピーチの話題に関するもの（73名）

- ・コメントしたくなるような内容にしてほしい
- ・みんなが分かる話題にしてほしい
- ・話題を考えるのが難しい
- ・統一テーマにしたらいい
- ・学級としてまとまりがでてくるようにしたらいい

○評価表に関するもの（49名）

- ・友達の自分に対する評価が知りたい
- ・よい面を評価するようにしたらいい
- ・評価することが自分のためにも人のためにもなるよ
うな評価表がいい
- ・評価表はやめた方がいい
(口頭で言うようにしたらいい)

○スピーチの仕方に関するもの（22名）

- ・声をもっと大きくした方がいい
- ・みんなに分かりやすい速さで言ってほしい
- ・できるだけ見せるものを持って来るようにしたらいい
- ・途中で聞き手に質問したりして、一方通行にならないようにしたらいい

○スピーチで使う英語に関するもの（21名）

- ・難しい単語や文法を使い過ぎないようにしてほしい
- ・新しい文法を習ったときは必ずそれを使うことにしたらいい
- ・疑問文を必ず入れ、聞き手に質問することにしたらいい

○その他

- ・グループで井戸端会議のようにおしゃべりをする日を設けたらいい
- ・討論会がしたい
- ・用紙を統一してスピーチ原稿集を作り、クラスの財産としたらいい
- ・もっと日本語を使ってもいいことにしてほしい

③ スピーチ活動改善案

以上の案を元に、生徒と話し合い、今年度の3年生はスピーチ活動を次のように変えることにした
(< >内は生徒、教師の予想)。

ア、興味・関心を同じくする人同士でグループを作り、そのグループで共通テーマに沿ってそれぞれのスピーチをする。(例：「学校行事について」話すグループ、「自分の得意なもの」について話すグループ)
<語彙、表現などがその時期によく使われるので定着しやすいだろう。内容につながりができて面白いだろう。>

イ、スピーチには必ずタイトルをつけることとし、そのタイトルはスピーチの前日にみんなに知らせておく。

表1 スピーチ評価表（従来のもの）

スピーチ評価表				
氏名 _____				
評価項目				
1. クラス全員に聞こえる音量があるか。				
2. 原稿を見ないで話しているか。				
3. 聞き手に理解してもらおう工夫しているか。				
友達の発表を上項目ごとに評価してみよう。				
A: とてもよい B: ふつう C: 努力不足				
月	日	スピーチ者		テーマ
1	2	3	総合評価	アドバイス
自分のQuestion or Comment				

<みんなは楽しみにして待てるし、あらかじめコメントの心積もりをしていくことができるだろう。>
ウ、新出単語は4つまでに制限し、発音練習は教師のモデルによって行う。

<スピーチを作る人は自分の知っている範囲で表現しようと努力するだろうし、聞き手も負担が少ないだろう。新出語の発音に自信があればコメントのときためらわずにすむだろう。>

エ、スピーチの途中に必ず聞き手に対して質問する所を1カ所以上つくる。そして話し手は何人かを指名して答えてもらうようにする。

<コメント希望者以外の人も発言の機会がもてるだろう。>

オ、スピーチをする人はできるかぎりvisual aidsを利用する。

<分かりやすいし、面白い。コメントが言いやすいだろう。>

カ、コメントを考える時間をつくって全員が考え終わった状態でコメントコーナーとする。

<今まで、先に言われてしまって言えなかった人が言いやすくなるだろう。>

キ、希望者以外に3人指名してコメントをしてもらう。

<1回も発表しない人はいなくなるだろう。>

ク、評価表を変える。良い点を評価するようにする。評価表はスピーチをした本人に渡し、次回にいかせるようにする。聞き手としての自分を評価する自己評価表もつくる。

<評価表をもとにより良い活動ができるだろう。>

ケ、原稿と反省、感想を書いてファイルに保存し、スピーチ原稿集をつくってみんなの財産とする。

<自分のスピーチを考えるとときの参考にできるだろう。>

コ、月に1回井戸端会議のようなスピーチの日を設ける。

<いろいろ自由に話せておもしろいだろう、1人当たりの発言の回数が増えるだろう。>

④ スピーチ活動の実際

以上のア～コについて共通理解を図った後、今年度5月から実行に移した。つぎに具体的な授業での一場面(1994.1.24)を紹介する(原文のまま)。

T : Today, the speaker is Mr.K. His title is "My favorite persons". (新出表現の説明) Now let's welcome Mr.K. (拍手)

(A男のスピーチ)

I like three "Ryo"s. First, as you know, "Ryo" Asuka. Second Shokatsu"Ryo" Komei. Third "Ryo"ma Sakamoto. You study hard now. So you will choose the second man. But I am going to speak about third "Ryo", Ryoma Sakamoto. (坂本龍馬の本を見せる)

He was a crybaby. And he was a fool. For examle, he couldn't write hiragana and kanji, and he couldn't understand math. And he wasn't strong. But when he grew up, he was very strong. He had 北辰一刀流免許皆伝. But his heart was child's heart. 薩長同盟 can tell it best. Japanese history was changed by a crybaby.

He had three girl friends. One was his wife Ryo, another was Sanako, and the other was Kayo. They were very beautiful. He had many good teachers and friends. Why do you think he was popular, Mr.N?

(N: Because he was strong.)

I think because he was a fool.

I want to be like him. But I can't be "Ryoma". Because Ryoma is Ryoma, I am I. So I

am going to be the highest myself. When I can be such a kind of the man, I can be "Ryoma". Thank you.

A男: Do you have any questions or comments?

P 1 : Kayo is also my sister's name. When was Kayo loved by Ryoma?

A男: (えっ?) . . . Ryoma loved her and she loved Ryoma. (あ、質問が違う? いつ?)
Ryoma is sixteen years old.

T : Ryoma loved Kayo when he was sixteen years old, you mean?

A男: Yes.

P 2 : You like 半村 良, don't you?

A男: (おお、忘れちゃったな、そういえば。) I like 半村 良 very much.

P 2 : So you like four "Ryo"s.

A男: Yes.

P 3 : Have you ever been to 土佐?

A男: No, I haven't. But I want to go there.

P 3 : I like Ryoma, too. (A男の持参した本を指して) please lend them to me.

A男: Sure.

P 4 : What "Ryo" do you like the best?

A男: I like Ryoma, I respect 諸葛亮孔明, and my favorite singer is Ryo Asuka.

P 5 : I think you can be a popular man like Ryoma. Because you are very kind and gentle like a child.

A男: I don't like Richard. (え、違うの?)

P 6 : Which do you like better, 坂本龍馬 or 勝海舟?

A男: I don't know 勝海舟 well, but I like Ryoma.

P 7 : I don't know him very well. But I have ever watched TV about him. Have you ever watched TV about him?

A男: Yes, but not every week.

P 8 : I watched お〜い竜馬 before. It's interesting.

(中略)

T : Anyone else? Ok, thank you, Mr. K. (拍手)

この後、評価表の記入、回収をする。評価表はスピーチをした本人に渡し、本人がまとめて今後の参考にする。このスピーチの中で、A男はまず導入を工夫している。自分は3人の「りょう」が好きだと言って、聞き手の注意を引いている。後のコメントでは、P 2の生徒がもう一人の「りょう」も好きだから3人ではなくて4人だね、というように言ってその工夫に応えている。最近テレビで坂本龍馬に関する番組をしていることもあってこの話題への生徒の関心は高かった。このようにして生徒は自分のことや身近なことを話題に、英語による自己表現に取り組んでいる。

2. 文字による自己表現の実践～英作文～

今までに行ってきた英作文を大別すると、授業中の新出文型による自己表現、投げ込み教材的に与える英作文、定期テスト及び学力テストで出題する英作文がある。

(1) 日々の授業の中で

新出文型による自己表現とは、例えば *I'd like to ~* の表現を新たに学習したときに、個々の生徒が自分のやりたいことをそれぞれ *I'd like to play outside on the day like today* のように表現することである。新出表現を学習したときはできるだけ自己表現をさせるようにしている。新出文型を使って自分のことを書いてみると、どんな場合に使う表現かを実感して体得することができるし、教科書などに載っている例文を用いるよりも意欲をもって学習できると思うからである。ただし、この場合は、新出の表現を用いての自己表現であるので、正しく使うことができているかどうか、書いたものを必ずチェックし、誤った使い方を覚えないように留意することが大切である。

(2) プラスアルファの教材として

プラスアルファの教材として与える英作文には、テーマを統一する場合と、使う英語の表現を統一するものがある。テーマを統一したものの例としては、

- ・自己紹介（1年）
- ・「わたしの大切な人」（1年）
- ・「英語をつかって楽しめるものをつくろう」（1年）
（ゲーム、なぞなぞ、絵本、など）
- ・「英語で漢字を説明しよう」（2年）
- ・Last Sunday（2年）
- ・絵本作り（2年）
- ・怪談づくり（小泉八雲研究）（2年）
- ・修学旅行のエピソード（3年）
- ・日本の事物紹介（3年）
- ・“OO Simple Things I am Going to Do to Save the Earth”（3年）
- ・My Dream（3年）
- ・3-Sentence-Speech（1～3年）

3 simple things I'm going to do to save the earth
class (2) name (A. K.)

To know about the earth
To know about Japan
To know about my home

*We can't shut off a faucet
because the faucet has broken. It has
fallen many drops of water at home
since a certain day. The drops look
like teardrops of the earth. So I
must have our faucet mended. It's my
homework.*
*We have to believe in tomorrow every
time. Our lives exist for tomorrow.*

生徒作文

などがある。使う英語の表現を統一したものの例としては

- ・“Will you ~ ?” など、指定された表現を必ず使ったのスキットづくり
- ・3-Sentence-Speech

などがある。テストでの英作文と大きく異なる点は、テストの英作文は辞書を使わないのに対し、この授業での英作文は辞書を使い（ただし3-Sentence-Speechを除く）、教師の援助を受けながら自分の作った文をbrush upするという点である。教師が指導、援助をする際には、生徒が自分自身の力で直せるところには下線をひいてチェックするのみにとどめ、自分の力ではどうしようもないものや、必要があるもののみ教えるようにしている。このようにして修正した英作文は、絵本などのように作品化したり、スキットづくりのように劇化して発表会をしたり、“My Dream”のように暗唱させたりしている。

(3) テストのなかで

前述のように、定期テスト及び学力テストでは、必ず自己表現の英作文を出題するようにしている。生徒はこの英作文のテーマを事前には知らないで、その場で辞書を使わずに英語で自己表現をしなければならない。自分の知っている範囲の英語をフルに使って表現するので辞書を使う英作文では見られない生徒のひらめき等が見られ、採点するのも楽しみである。出題する際はどんな学習レベルにある生徒でもその生徒なりの自己表現ができるように

- ・多様な内容で書けそうなテーマを選ぶ

- 生徒の興味関心をひきそうなテーマを選ぶ
- できるだけ選択の余地があるような出題の仕方をする
- 使わせたい表現を自然にひき出すようなテーマを選ぶ
- 定期テストではテスト範囲とマッチしたテーマ、内容を選ぶ

ということに留意した。

現3年生に対してこれまでに出题した自己表現関係の問題は次のとおりである。

第1学年 入門期であることから、書かせる場合は基礎的な内容を選び、発展的な内容についてはヒントとなる語を提示したり、選択肢から選べるようにしたりした。

- 1学期中間 • 次の問はあなたへの質問です。英語で答えなさい。
What is your name?/Are you a boy?/
Are you a student?/Are you a fan of the Hiroshima Carp?
- 1学期期末 • 次の問はあなたへの質問です。英語で答えなさい。下にヒントがあるので参考にしなさい。
What subjects do you like?/Do you have a good friend?/
How do you come to school?/
Are you a boy or a girl?/Do you study English hard?/ (ヒント: まだ教科書で綴りを学習していない語句が必要と思われるもの一覧)
- 2学期中間 • 次の問はあなたへの質問です。英語で答えなさい。 Is your hobby tennis?/
Do you have any sisters?/When is your birthday?/
Does your English teacher come to school by bicycle?/Who is your favorite singer/
writer (どちらかを選んで答える)?
- あなたの担任の先生について5行程度の英文を書きなさい。
- 2学期期末 • 放送のスピーチを聞いて、それに対するあなたの質問やコメントを英語で書きなさい。
- have (has) を1回以上使って3文のまとまりのある英文を書きなさい。
 - I can speak Japanese. に3文付け加えてまとまりのある英文にしなさい。
 - 次の問はあなたへの質問です。英語で答えなさい。 How old are you?/
When is your birthday?/What time is it now? (あなたがこの問題に答えている時間)
 - 附中の先生の中から、あなたが知っている先生を男性・女性1人ずつ選んでそれぞれ4行の英文で述べなさい。ただし、あなたの組の担任の先生は除きます。
 - あなたの1日の生活について英文を書きなさい。量は自由です。
- 3学期期末 • My Town、My School、My Room から題を1つ選んで6行程度の英文を書きなさい。
- have (has) を1回以上使って3文のまとまりのある英文を書きなさい。
- 学力第1回 • 自分で自分に対する質問の英文を作り、さらにそれに対して英語で答える問題

第2学年 1学期しか担当していないが、過去形が主要な新出表現であることから、それと意識しなくても自然に過去形を使わざるを得ないテーマを選ぶように心掛けた。

- 1学期中間 • I studied English with Ms. Liebelt on April 27. に3文付け加えて、まとまりのある英文を書きなさい。
- あなたの昨日の生活について5行程度の英文を書きなさい。(1日の生活でも、そのなかの1コマでも可)
- 1学期期末 • I would like to ~ の表現を1回以上使って3文のまとまりのある英文を書きなさい。

学ぶよろこびを味わえる英語学習

- あなたの子供時代について5行程度の英文を書きなさい。(生まれてから中学校入学まで、子供時代全体でも、そのなかの1コマでも可)
- 学力第1回 • それぞれの文に3文付け加えてまとまりのある英文を書きなさい。 Today is April 9./ Mr. Tanaka is our principal.(*校長先生)/I have some good friends./ Japan has many interesting places./I study English at school.
- 学力第2回 • Kin-san and Gin-san are very popular in Japan now. に3文付け加えて、まとまりのある英文を書きなさい。
 - あなたの今年の夏休みについて5～7行程度の英文を書きなさい。(夏休み全体でも、そのなかの1コマでも可)
 - 2学期から英語を教わる先生 (Mrs.Hatano) に5行程度の英文で自己PRをしなさい。
- 第3学年 興味関心をもって取り組めるテーマを選ぶように心掛けた。また、最高学年ということもあり、テストも授業の一部であるという考えからも、授業で扱った内容について生徒の考えを問うこともしてみた。なお、6語以上12語以内の条件英作文は過去の島根県公立高校の入試問題の出題方法になったものである。
 - 1学期中間 • 「わたしは～したことがあります。」という表現を1回以上使って3文のまとまりのある英文を書きなさい。
 - how to ～ の表現を1回以上使って3文のまとまりのある英文を書きなさい。
 - < > always make(s) me happy. という題で5文程度のまとまりのある英文を書きなさい。(< >の中は英語でも日本語でも可)
 - 1学期期末 • あなたが興味をもっていることについて3文の英語を書きなさい。
 - I hope ～ の表現を1回以上使って3文のまとまりのある英文を書きなさい。
 - 次の場面設定によって英作文をしなさい。「附中に、CaliforniaのNorco High School から15人の生徒が親善交流にやってきました。そこで今あなたのクラスで歓迎のパーティーを開いているところです。」その中の1人 (Bill Miller) に話しかけるところから話を切り上げるところまでの会話をつくって書きなさい。せりふは1人4つ以上6つ以内で書くこと。
 - 2学期中間 • so ～ that ... の表現を1回以上使って3文のまとまりのある英文を書きなさい。
 - あなたの得意なことについて6語以上12語以内の英語で説明しなさい。
 - 2学期期末 • Imagine を歌ったり Strawberry Fields を読んで思ったこと、感じたことを3文で書きなさい。教科書Program 6-4 の文章(暗唱課題)を読んで感じたこと、考えたことを4行程度の英文で書きなさい。
 - 高校へ入ったら何をするつもりですか、6語以上12語以内の英語で説明しなさい。
 - 学力第2回 • I didn't know what to do. の前に3文付け加えてまとまりのある英文を書きなさい。
 - Summer is coming soon. という題で5文程度のまとまりのある英文を書きなさい。
 - 学力第3回 • look forward to ～ を1回以上使って3文のまとまりのある英文を書きなさい。
 - We had much rain this summer. という題で5～7行の英文を書きなさい。
 - 学力第4回 • It is ～ for me to ... の表現を1回以上使って3文のまとまりのある英文を書きなさい。
 - Undoukaiという題で5行程度の英文を書きなさい。
 - 昨日家に帰ってから何をしましたか、6語以上12語以内の英語で説明しなさい。
 - 旅行へ行くとすればどこへ行きたいですか、またそれはなぜですか、6語以上12語以内の英語で説明しなさい。

これらの自己表現の評価は内容と英文の正しさの2つの観点から行った。例えば、5点を満点とした場合は次のようにした。

- 5点 1カ所も間違いのないもの／1～2カ所ささいなミスはあるものの内容が大変優れているもの
- 4点 1～2カ所ささいなミスがあるもの／3つ以上ミスがあるが内容が大変優れているもの（ただしその問いでねらっている英語表現の用法が間違っているものは除く）／1カ所もミスはないが内容に不満が残るもの
- 3点 4点と2点のどちらにも入らないもの（中間）
- 2点 その間でねらっている英語表現の用法が間違っているもの／ミスは多いが自分の考えを表現しようという意図がよく現れているもの
- 1点 何か書いてあるもの
- 0点 何も書いてないもの

例えば「昨日の生活」について書くとき、“I got up at seven. I had breakfast at seven thirty. I went to bed at eleven.” という間違いではないながらもただ事実のみを同じ文型で並べた文と “I got up at seven. My mother was making a breakfast. She made a nice breakfast. Thank you, Mother.” という文を比べて、この間のねらっている過去表現は両者とも正しいことを考えれば、後者の方が劣るということはないのではないだろうか。この採点方針は事前に生徒にも知らせておいた。特に、内容を重視すること（その人ならではの自己表現かどうか）、書く意欲も評価すること（まちがいであってもとにかく書いてあれば点を与える）はしっかりと伝えておいた。

高い評価を与えた作品の例をいくつか紹介する。（原文のまま）

- I have seen Kazuyoshi Miura. He wasn't famous at that time. But he is a big star now.
(「～したことがある」の3-Sentence-Speech)
- My brother wants to become 大工さん. He said, "I'm going to build your house." But he doesn't know how to build a house.
(how to ~ の3-Sentence-Speech)
- <Music always makes me happy.>
I like music very much. I have favorite singers. When I am sad, their songs make me happy.
I love music. And music is my friend.
- <地球 always makes me happy.>
The earth is very beautiful and nice. It always teaches something to us. We can speak, walk, and learn. And we always love something. So I'm always very happy.
- <My bicycle always makes me happy.>
My bicycle always makes me happy. I always ride on it when I am sad. It is very old. But I like it very much. My bicycle is my good friend.
(以上3作品: OO always make(s) me happy.)
- I think Japanese are very rich. In Africa, people are very poor. They can't eat any foods.
"We are one big family living on this precious earth." I think so, too. But we don't understand this word. We should think more.
- Our big home is the earth. But many people break our home. We have to keep our home by ourselves. So we don't need countries, a lot of languages, religions. We are one big family and we are all friends living in the same home.
(以上2作品: 暗唱課題を読んでの感想)

これらの優秀作品はプリントにしたり口頭で発表させたりして、他の生徒の参考になるようにした。これら

の作品に共通して言えることは、自分の考えや感情を自分の中でしっかりとらえて的確に表現していることである。テストが単なる試験ではなく、自分を見つめ直したり再発見したりする時間になれば、と願ってテーマを選んでいる。テーマ別に見てみると、自分自身の考えを述べるテーマのときのほうが、生徒は意欲的に取り組んでいた。

また、生徒に答案を返す際は、間違いをいちいち訂正したりせず、前述の授業で扱う英作文と同様、自分で気付く直せる間違いについて下線をひいてチェックするにとどめた。そして多くの生徒に共通してみられた間違いや、有用な表現については一斉に指導し、個々の質問については各自で聞きに来させるようにした。これは、自分の力で直せるものについては、自分でどこがどうおかしいのに気付かせ、修正させた方が効果的だと考えたからである。多くの生徒にどの話題でも共通して見られるミスには次のようなものがあった。

- ・冠詞の脱落 例：Matsue is beautiful city.
- ・不必要な冠詞の使用 例：Matsue is a beautiful.
- ・接続詞の後の大文字 例：And It is very important.
- ・becauseとsoの混同 例：I went to bed late last night, because I am sleepy now.

I'm going to study English hard, so I want to go to U.S.A.

繰り返し指導することによって減少してはきたが、いまだにおなじミスをする生徒もいる。これらの生徒は、それぞれを文法の問題として問えば正しく答えることができるので、上記の4点は自己表現の英作文をする際にうっかり間違えたり、忘れたりしやすいことだと言えるだろう。

3. 自己表現を支えるためのたぐい

ひとくちに自己表現と言っても、ただ自分のことを話したり書いたりさえしていれば、正しくない英語をいつまでも使っていてよいというわけではない。意欲を育むと共に、英語の力も高めていきたい。また、生徒も、ほぼ正しい英語で自己表現ができればそのぶん満足感も大きく、学習意欲もわいてくる。そのために、次のことを行った。

(1) 良文の暗唱

1、2年生のときには、教科書を1冊全部暗唱していたが、負担も大きいことから暗唱課題を精選した。精選するに当たっては、暗唱するにふさわしい内容および有用な英語表現を多く含む文章を選ぶようにした。具体的には国際社会の中の日本文化についての文章、日本についての紹介文、峠三吉の「にんげんをかえせ」、平和及び環境問題についての文章、My dream、We Are the World にまつわる文章を選び、生徒に選定の理由も話したうえで暗唱させた。暗唱は一人ひとり全員のものを聞くので、個別に、発音、アクセント、抑揚、文の句切り方等の指導ができ、スピーチ活動を支える大きな力となった。また、暗唱した文を参考にして自己表現がしやすいような文章を選んだので、英作文の際にも役立ったようである。

(2) 自主学习ノート

週に1回ずつ自主学习ノートを提出させている。このノートには英語に関係することなら何でも書いてよいことにしているので、単語練習をする生徒、問題集を解く生徒、英文日記を書く生徒、教科書の和訳をする生徒、授業で感じたこと考えたことを日本語又は英語で書く生徒、質問を書く生徒などさまざまである。生徒は自分の必要に応じて自分なりの課題意識をもって取り組んでいる。このノートは家庭学習の習慣を身につけさせ、基礎学力を保障するという目的と、さらに英作文等の力を身につけたい生徒への個別指導の目的とで始めた。

自己表現をさせる際には、「表現するに足る話題」、「表現できる力」、「表現活動をする時間」の3つが必要不可欠であると思う。この3つが自己表現を支えるものだと考え、それらを保障するよう留意している。

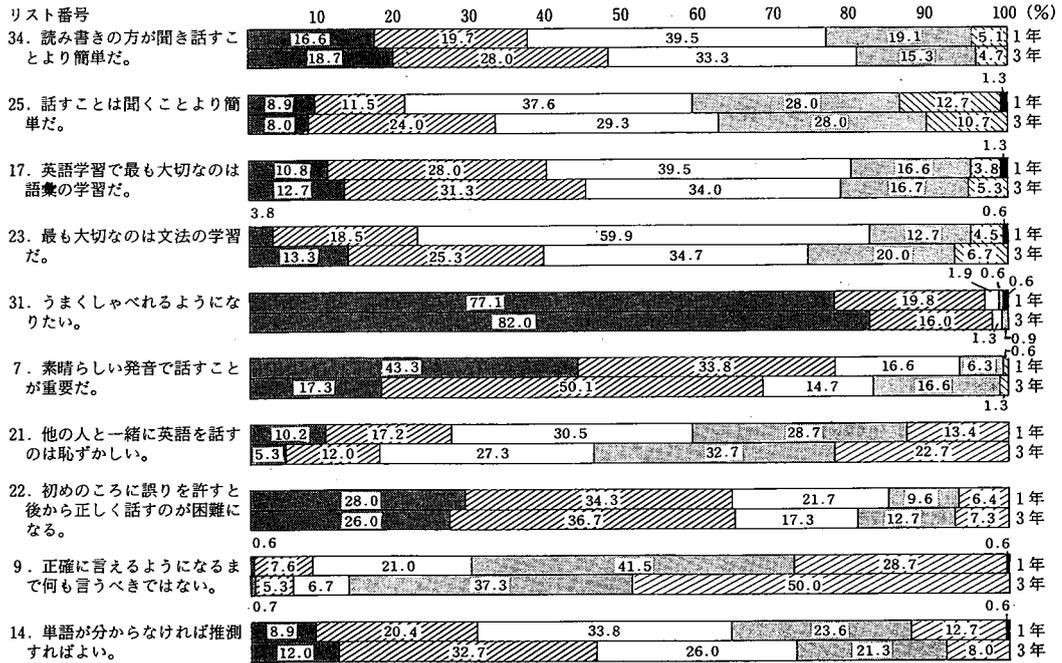
4. 考察

(1) 生徒へのアンケート調査から

以上のような実践を通して生徒の意識がどのように変容したかを、入学直後と第3学年3学期の2度行ったアンケート“Surveying Students Beliefs about Language Learning” (Herwitz (1987), cf. 松畑・高塚 (1989), 『英語授業を魅力的に』) の結果を中心に考察してみる。

言語学習観チェックリスト (抜粋) アンケート結果

(第1学年時157名、第3学年時150名対象、1991. 4. 13~17、1994. 1. 19実施)



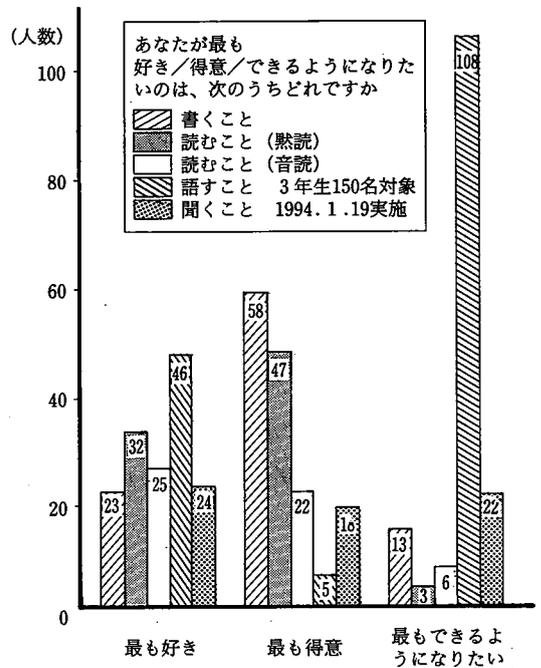
“Surveying Students Beliefs about Language Learning” Herwitz (1987)

非常にそう思う
 そう思う
 どちらでもない
 そう思わない
 全くそう思わない
 無回答

① 文字領域と音声領域

1・3年を通じて、文字領域よりも音声領域の方が難しいと感じている生徒が多い。この傾向は1年時よりも3年時の方が強い。(リスト番号34) また、音声領域の中では、1・3年を通じて話すことのほうが聞くことよりも簡単だと感じる生徒が多い。特に3年生になって「そう思う」が2倍に増えている。(リスト番号25)

さらに3年生を対象に各領域について最も「好き/得意/できるようになりたい」のはどれかを調査したところ、次のような結果が得られた。「好きな領域」では「読むこと」が最も多いが、その他の領域との差は、「得意/できるようになりたい」に比べればそう大きくはない。「得意な領域」では「書くこと」が一番、「聞くこと(黙読)」が二番で、文字領域が全体の70%を占めている。「話すこと」は最も少なく3%であった。この結果はリスト番号25の結果と矛盾するように思われるが、両アン



ケートは同日、同一生徒を対象に行なったことを考えれば、「話すことは聞くことより簡単だ」と答えた生徒のなかには最も得意なものが文字領域である生徒が多かったということが言えるだろう。「できるようになりたい領域」では「話すこと」が70%で1位であった。これに「音読」と「聞くこと」を加えると音声領域は90%となる。つまり、「話すこと」は得意ではないが、最も好きであり、できるようになりたい領域であるということがわかる。このことは「うまくしゃべれるようになりたい。」という生徒がほぼ全員であるということからもわかる。(リスト番号31)

さて、このような願いをもった生徒が英語学習の中で何を重視しているかを見てみると、1年生の時には語彙が最も大切だと答えた生徒が文法を大切と答えた生徒の約2倍だが、3年生では「文法」が倍増し、ほぼ均衡している。これは、3年間の英語学習の中で文法の重要性に気付いた生徒が多かったということだろう。その反面、「最も大切なのは文法ではない」という生徒も増えている(17.2%→26.7%)。これらの生徒は他にもっと大切なものがあると気付いたのだろう。(リスト番号17、23) また、「素晴らしい発音」については、重要だと思う生徒が多いものの、その数は1年約80%→3年約70%と減少している。なかでも「非常にそう思う」は43.3%から17.3%に激減している。(リスト番号7)

② ためらいと意欲

次に間違いや失敗に対する意識を見てみると、「他の人と一緒に英語を話すのは恥ずかしい」と答えた生徒は1・3年を通じて「そう思わない」方が「そう思う」より多かった。特に3年生ではそう思わない生徒がそう思う生徒の約3倍に増えている。なかでも「全くそう思う」が半減し、「全くそう思わない」が倍増している点に注目したい。(リスト番号21) これは、日頃のスピーチ活動等を通してお互いがお互いを認めあってきたことの成果だと思う。リスト番号22の「初めのころに誤りを許すと後から正しく話すのが困難になる」の結果はこの調査結果のなかで唯一予想に反したものであった。私は「そう思わない」の方が3年では多くなると予想していたのだが、実際の結果は1・3年とも「そう思う」生徒が約60%で変化しなかった。ただし3年の「そう思わない」は「どちらでもない」が減った分だけ増えた。この質問の「誤り」を発音ととらえたか文法ととらえたかによっても変わると思うが、3年生は入門期にもっときちんとやっておくべきだったと思っているようである。「正確に言えるようになるまでは何も言うべきではない(リスト番号9)」については1・3年とも「そう思わない」と答えた生徒が多い。(70.2%→87.3%) 特に「全くそう思わない」は28.7%から50.0%に激増している。以上の2項目を併せて考えると、生徒は「間違いでもいいから話してみる方がいいが、間違いをそのままにせず正しいものにしていくことが重要である」と考えていると言えよう。「単語がわからなければ推測すればいい(リスト番号14)」については1年時にはそう思わない生徒の方が多いのに対し3年ではそう思う生徒の方が多くなっている。このような1年と3年で結果の逆転が起こったのはこれだけであった。生徒は3年間の経験を通して推測の有用性がわかったと言える。

このアンケート調査のいずれの項目も、「どちらでもない」が1年から3年にかけて減少している。それぞれ自分の言語学習観が定まってきたということだろう。以上をまとめてみると、全体的に見て音声領域への興味関心が高く、この3年間で英語を話す際の抵抗感は少なくなった、と言える。

③ 好きな活動とためになった活動

生徒は聞くこと、話すことへの関心が高いことは前述のとおりだが、それでは附中で行った活動の中で生徒はどの活動が最も好きだったか、そして何が最もためになったと思っているかをたずねてみた。その結果を多い順に5つ並べると次のようになる。

〈最も好き〉	〈もっともためになる〉
1位 スピーチ、弁論 32名	1位 外国人講師の授業 48名
2位 「英語を使って楽しめるものをつくろう」 30名	2位 スピーチ、弁論 38名
3位 外国人講師の授業 27名	3位 暗唱 37名
4位 英語の歌 22名	4位 テスト 25名
5位 ビデオを使った授業 21名	5位 普段の授業 9名
(3年生徒150名対象、1994.1.19実施、自由記入)	

どちらにもスピーチ、弁論と外国人講師の授業がはいっており、聞くこと、話すことへの関心の高さがここでもうかがえる。本稿でとりあげたものでは、「最も好き」なものにスピーチと「英語を使って楽しめるものをつくろう」、「もっともためになった」ものにもスピーチ、それを支える暗唱、テスト（テストと答えた生徒のなかにはテストの作文と書いた生徒もいた）が入っている。自己表現活動に対して、「好き」で「ためになる」という感情をもっている生徒が多いと言えるのではないだろうか。

(2) スピーチ活動の実践から

① スピーチ活動改善案を実施してみた

新しいやり方でスピーチ活動を行って10カ月がたった。それぞれの改善案はどの程度効果があったかをここで考えてみよう。

ア、グループ毎の共通テーマを設けることについて

同じテーマが続くと聞き手も飽きてくるし、話題によっては前回の人のものとは違う話題を見つけにくく、毎回似たような内容のスピーチになってしまって面白くなかった。そのため質問やコメントもワンパターンになったり、ネタがなくなってしまうたりした。また、グループ決めをした時点では興味があったことでも、当番が回ってくるころにはもう興味がなくなってしまうこともあった。結局スピーチ当番が一巡したところで以前のような自由なテーマに戻した。すると、以前自由テーマでやっていたときよりも面白い話題を選ぶようになった。これは一つには生徒が精神的にも成長し、体験も増えたことがあろうし、もう一つはテーマを再び自由に選べるようになってその良さがわかったこともあるだろう。

イ、スピーチのタイトルについて

タイトルがはっきりわかるようになって、内容を推測することが容易になり、それまで聞き取ることが困難であった生徒も聞きやすくなったようだ。ただし、前日にタイトルを知らせることについてはあまり効果は見られなかった。

ウ、新出単語の扱いについて

単語数を制限することによって、スピーチをする生徒にも、なんとか知っている表現で書いてみようという姿勢が見られるようになった。また、聞き手の負担が減ったので聞き取りがしやすくなり、その分質問やコメントが増えた。教師のモデルによって発音練習をしてからスピーチを聞くようにしたら、聞き取りも容易になり、また自信をもって質問やコメントの際その語を使えるようになった。

エ、スピーチの途中で質問について

その質問のところで聞き手は一休みし、スピーチの内容を頭のなかで整理してから続きを聞くことができるので、特に理解に時間の掛かる生徒にとっては有効であった。質問は、話題の中心に関することを平易な英語で聞くことが多いので特に良かったようだ。生徒同士のinteractionが増したことは言うまでもない。

オ、visual aidsの使用について

以前に比べ、visual aidsの使用が増えた。生徒もvisual aidsを使うと好評なのがわかるのでできるだけ用意するように心掛けているようだ。ただし、効果的な提示の仕方についてはまだまだ指導の必要があると思う。

カ、コメントを考える時間を設けることについて

これについては生徒の希望が強く採用を決めたのだが、教師はそれではその場でとっさの応答の練習にはならないのではと内心危惧していた。実際やってみると、コメントした生徒にスピーチをした生徒が問い返したり、スピーチをした生徒の答えにさらに質問をした生徒がコメントをしたりするようになったので、とっさの応答の練習はその場でできていた。この生徒同士のinteractionが活発になってきたのも、コメントを考える時間が確保され、それまで他のもっと早く考えをまとめられる生徒に先を越されて発表できなかった生徒にも発表の機会が回ってきたことが大きいように思う。ただ、なかには書いたものを読み、eye contactのとれない生徒がいるので指導していきたい。

キ、コメントする生徒を希望者以外に3人指名することについて

一回も発表しない生徒はいなくなった。なかには指名されたことを契機にその後自主的に発表できるようになった生徒もいた。

ク、評価表を変えることについて

スピーチをした本人に評価表を渡すことにしたので、まずスピーチをした生徒が自分のスピーチに対する全ての友達の評価やコメントを知ることができるようになり、意欲づけにもなったし、回を重ねる毎に前回の反省が生かされるようになった。またその際、評価の仕方をABCをやめて良い点を評価するようにしたのも好評であった。聞き手はそのほうがつけやすい（Cはつけにくい）という理由、話し手は全てに〇がつくようにがんばれるから、ということであった。また、自分の書いた質問やコメントが必ず相手に読んでもらえるという思いから、聞き手は心を込めてコメントを書くようになった。英語で表現しきれないものについては日本語使用も可としたので評価表を通じてさまざまな心のやりとりもしているようである。極端に言えば、英語を書く力が不足している生徒が全てを日本語で書いたとしても、それが本当に彼の言いたい内容であり、彼が英語を聞き取って考えたことであるならば立派な英語の活動だと思う。また、全員が必ずコメントを書くようになったので発表する生徒も増えた。

また、聞き手としての自分を評価する自己評価表については、実施するにあたり、人の話を心を込めて大切に聞ける人であってほしいという願いを話したこともあり、聞き手育成のうで多少の効果はあったように思う。ただ、こちらの自己評価表のほうはまだまだ改善の余地があると思う。

スピーチ評価表		1月27日 3年2組 (永〇)	
スピーチをした人	#〇さん	タイトル	cakes
1、あなたのスピーチは・・・			
		聞き手にとってわかりやすいものだったかどうかを評価する / わかりやすいは評価されていると60点つける	
声の大きさ		〇	
話す速さ		〇	
態度・表情・身振り・手振り		〇? おほほう	
実物・写真・絵など		〇	
2、コメント&アドバイス			
There is my favorite cake shop near 11ちゃん百貨店. The shop's name is ケーキ. Have you ever been to the shop?			

スピーチ評価表 (3年時)

スピーチ自己評価表

3年4組 番 (E—0—)

日付	スピーチをした人	しっかり聞き取ろうとしたか	スピーチの内容が良かったか	コメントや質問を発言したか	今までの発表回数の合計	今日の聞き手としての自分自身
		はい 良かった	よく 良かった あり 全く 良かった 良かった 良かった 良かった	はい しようとした 良かった		満足 不満
12/11	H.	Y	Y	Y	1	Y
12/18	S.	Y	Y	Y	2	Y
12/14	N.	Y	Y	Y	3	Y
12/16	T.	Y	Y	Y	4	Y
12/17	T.	Y	Y	Y	5	Y
12/20	T.	Y	Y	Y	6	Y
1/14	S.	Y	Y	Y	7	Y
1/17	T.	Y	Y	Y	7	Y
1/19	M.	Y	Y	Y	8	Y
1/20	A.	Y	Y	Y	9	Y
1/22	C.	Y	Y	Y	10	Y
1/24	M.	Y	Y	Y	11	Y
1/25	A.	Y	Y	Y	11	Y

スピーチ自己評価表 (3年時)

ケ、スピーチ原稿集について

みんなの財産とするところまでは残念ながら活用しきれていない。効果としては、それまではスピーチはしたらそれで終わりだったのだが、友達のコメント等を見て思ったことやスピーチをしての感想を簡単にまとめることによって自分のスピーチを振り返る機会となったことがある。

コ、井戸端会議スピーチについて

結局、一回しか行えなかった。これは、私の見通しの甘さが第一の原因である。井戸端会議と言ってもなんらかの話題が必要だと思うのだがそれが十分に用意できなかった。また生徒をどのように掌握するかについて明確な方針が決められなかったことも理由の1つである。

サ、その他

自分たちの手で改善した、という気持ちがあるからか、スピーチ活動に以前よりも積極的に課題意識をもって取り組む生徒が増えた。これが一番の収穫であった。

② 生徒のスピーチ観〜よいスピーチ活動をするには〜

第3学年2学期には、教科書でスピーチについての教材を扱ったこともあり、それまでのスピーチ活動のまとめとして、期末テストで「よいスピーチ活動をするにはどんなことが必要だと思いますか。」という問題を出題した。答案を見ると、一人ひとりの生徒が、それまでのスピーチ活動の経験や、折々の教師の話などから、自分なりに考えて書いていた。以下にその例をいくつか紹介する。

話し手の立場から
自信をもってスピーチをし、相手に自分のいいところを訴えたいところをしっかりと伝える。下を向いてブルブル言うのではなくみんなをみてしっかりと聞かせるような声で自分の気持ちをつけて明るく話す。そして言葉や聞き手へ後をもたて話す。
聞き手の立場から
話し手の目を見て何を伝えたいかを読みとり、自分もそのことについて意見を持っていてほしいと考える。話し手が話している時はスピーチに集中し、自分勝手には返さない。相手のスピーチにうなずいたり意見を言ったり、とにかく話し手に対してどうなのかという反応を示す。
全体的に
話し手と聞き手がお互いに意見をもち、自分に新しい意見をとり入れる。聞き手はほとんど意見を發表し、その他の人もそれについて考える。とにかく話し手と聞き手のコミュニケーション。

話し手の立場から
話し手は聞き手が聞きやすいようなスピードでスピーチをすることが大切である。さらに発音はハッキリとした方が、とわかりやすいスピーチになる。それだけでなく、表現方法もいろいろある方がよい。表情や物などがあれば最高である。
聞き手の立場から
聞き手はただ聞くだけでなく聞き手といえない。話し手の目を見て、時々話の内容に合わせてうなづいたりすることが大切である。
全体的に
話し手も聞き手も会話をしていく良かた、と思えるようなスピーチが理想的である。お互いに相手の気持ちも考えながら話したり、質問したりするのはとても大切なことだと思える。

多くの生徒が書いたことをまとめると次のようになるが、全く同感である。

- ・話し手は聞き手が興味をもって聞けるような話題を、心を込めてわかりやすいように話す。
- ・聞き手はただ聞くのではなく自分の考えや意見もちながら聞く。話し手が気持ち良く話せるように配慮する。そして話し手と心のキャッチボールをする。
- ・お互いにスピーチを楽しむ。LOVEが大切。

なお、LOVEが大切と書いた生徒が多かったのは、Peter Milward先生の講演の中の「スピーチに大切なものはLOVEだ。人に対するLOVEがあればおのずと話題や話し方は良いものになる。言葉に対するLOVEがあれば言葉を大事に使うから良いスピーチになる。」(Peter Milward "Speaking in English" 第43回全日本英語教育者会議 1993.11.19東京) という言葉を生徒に紹介したことが印象的だったからであろう。

V まとめと今後の課題

現在の3年生とは主に英語を通して約2年間を共に過ごしてきた。本稿をまとめるにあたって彼らの3年間の自己表現活動を振り返ってみたわけだが、その中で気付いたことは、生徒達の自己表現活動は教師である私自身の自己表現活動でもあったということである。どのようなテーマを、いつ、どのようにして与え、それをどのように評価し、生徒に還していくか、その1つひとつが私の自己表現活動であったと思う。英語の力という面では教師である私が生徒を指導する立場にあったが、自己表現の力とういことになると物事を見る際の生徒達の真摯なまなざしやひらめきに学ぶことも多かった。この点で、私にとってこの実践は大きな喜びであり、収穫であった。生徒にとってもそうであることを願っている。

ただし、まだまだ工夫、改善しなければならないことも多々ある。今後の課題としては次のようなことがある。

- ・音声領域と文字領域のかねあいの検討

中 釜 智 子

- ・スピーチ活動をよりcommunicativeなものにするための工夫
- ・表現力を高めるためにより効果的なテーマの選定
- ・テーマの選び方についての生徒への指導

自己表現が自分のなかだけにとどまるのではなく、「認めあい高めあう自己表現力」を育成したいというのが私の現在の最大の目標である。この目標に一步でも近づけるよう、努力していきたい。最後に、3-Sentence-Speechを通して自己表現の楽しさを教え、英語教師への道を示して下さった恩師田辺裕弼先生に感謝して本稿のおわりとしたい。

参 考 文 献

- 大浦暁生（監修）（1982），『たのしい英語自己表現の授業＜中学編＞』東京：三友社。
- 田辺裕弼（1991），「より豊かな表現活動の指導をめざして－3-Sentence-Speech活動の実践例－」『研究紀要』第33号，島根大学教育学部附属中学校，pp.67-94。
- 松畑熙一・高塚成信（1989），『英語授業と魅力的に』東京：大修館。
- 三浦省五（編）（1983），『英語教育学モノグラフ・シリーズ 英語の学習意欲』東京：大修館。
- 文部省（1989），『中学校学習指導要領』東京：大蔵省印刷局。

（なかがま ともこ・英語科）